

同窓会報

同窓会長挨拶



同窓会長
西山 直司

同窓会員の皆様には益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。日頃は同窓会活動にご理解とご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

さて、今年も動物科学部がプロジェクト発表で、東海ブロック出場を果たしました。全国大会こそ逃しましたが、大変充実した内容であったと思います。意見発表では、鈴木尊さんが県大会最優秀を受賞し、東海ブロック出場を果たしました。また体育会系では、野球部が春と秋の三大大会で3位、陸上競技部では、柏原京平さんがやり投げで東海大会出場など目覚ましい活躍をしております。母校の栄誉は、同窓生として大変嬉しい事でした。ひとえに在校生の方々、先生方のご努力あつての事と、厚く御礼申し上げます。

今年は、校舎の西の端にある庚申塚のお話をしたいと思っております。庚申信仰は、各地にあります。この地域でも盛んに行われてきました。起源は庚申(かのえさる)の日(60日おきに來ます)に、人の体内にいる三尸(さんじ)という虫が眠っている間に天に昇って天帝に罪を告げるため、その晩は眠らずに過ごすというものです。自分の罪を天に告げ口されないように眠らないというものです。とても興味深い信仰ですが、食事をして朝までしゃべったりして過ごすのは大変で、最近は大いぶさなくなっているようです。こんな信仰の塚が校内にあります。長寿や健康を守るご掲載されていますので、一度気を付けて見て頂きお参りして下さい。

また今年は、時間が取れましたので、農高祭をゆくり見えてきました。相変わらず盛況で、地元の人に愛されているなど感じました。各クラブやクラスの展示もとても興味深い内容が多くあり、在校生の皆さんの頑張りやひしひしと伝わってきました。農産物販売は相変わらずすぐ売り切れるほどで、私は青パイヤを3個買っただけでした。とても楽しい農高祭でした。ずっと盛況が続いていく事を期待しております。

昨年宣言した、学外講師を招いての授業は、僭越でしたが今年は私が行わせて頂きました。1週間に渡り合計6回やりました。学生さんに何



発行 令和7年3月3日
愛知県立渥美農業高等学校同窓会事務局

TEL 0531-222-10406
FAX 0531-222-16462

を伝えられるか暗中模索でしたが、私なりに農業の可能性をお話しできたかと思えます。最も強調したかったのは、これから農業は成長分野になれるという事です。少しは印象が残っていればと願います。

さて、昨年も触れましたが、少子化の問題は大変厳しい状況があります。地元でも保育園の方針が出されました。学生の減少に伴い、今後は大きな変革が必要になるやもしれません。渥美農高は昭和26年に、地域農業者の育成を目的に当時渥美郡十一ヶ町村(現在の田原市と豊橋市の一部)の請願によって設立されました。実に長い間、地域農業者の育成に貢献して来ましたが、今後は日本有数の農業地域を支える農業教育の中心になって行かなくてはなりません。次の世代に向けてどのような農業教育の場を提供しているか、同窓生の皆様のお知恵をお借りたいと思っておりますので、ご尽力頂ければ幸いです。

お詫びしなくてははいけない事ですが、50周年記念事業の一環で始まったオランダ王国・ウエラントカレッジとの姉妹校派遣事業は、今年についても断念せざるを得なくなりました。今年アメリカ派遣の可能性についても検討するため、テキサスにも出かけてきましたが、すぐに実現できる状況にはなりません。今後も情報収集に努め、鋭意努力していきたいと思っております。ぜひ皆様のお知恵をお借りできればと思います。最後になりますが、同窓生の皆様のご活躍と、渥美農高の弥栄を祈念して挨拶に代えさせて頂きます。

校長挨拶 「世の中に一隅を照らす存在」



校長
鈴木 修市

渥美農業高等学校同窓会の皆様には、平素より本校の発展のために物心両面から温かい御支援と御協力をいただいております。厚く御礼申し上げます。そのおかげで、創立以来、良き伝統を受け継ぎながら、多くの地域の農業及びその他産業の担い手を育成し、本年度創立74年目を迎えることができました。この間、本校で勉学に励んだ12,705名が巣立ち、多くの先輩方が、農業はもとより産業、経済、政治、文化等のあらゆる分野で活躍され、郷土渥美半島の現在の隆盛の礎を築かれています。

今、日々、戦争下で生活している人々、4年間に及ぶ新型コロナウイルス感染症の収束を見据えたばかりでの能登半島地震による甚大な被害など、現在でも過酷な状況下での生活を強いられようとしている人々に思いを馳せて、1日でも早い平和と復興・復興を願うと共に改めて、平穩無事であることの大切さを感じているところです。現在、生徒たちは、有意義な学校生活をするために、学業や部活動、農業クラブ活動など、一生懸命取り組み、大きな実績をあげております。それぞれの生徒は勇気と意欲をもち続け、挑戦しています。本校の伝統と使命を大切に継承しつつ、時代の変化や社会の要請に、学校として挑戦を続けているところです。

さて、授業においては、ICTを活用した場面が本格化していきます。これからの社会は「Society 5.0の時代」と言われるAI(人工頭脳)やビッグデータ、ロボット技術をあらゆる場面で活用した、現在とは大きく異なった世の中になっていくことと思います。このような、高度情報化社会といわれる世界、バーチャルが先行する世界では、真実が見えづらく何をどうしたらよいか戸惑うことがあるかもしれません。そんな時こそ、多くの知識と経験を基盤とした判断能力が必要となります。そして、人間の真の幸福とは何か、何を優先すべきことなのかを考え行動することが、今後も考え続けなければならぬことです。単に個人の好奇心や欲求を満たすということだけではなく、人間共通のかけがえない財産を大切にするためにベストをつくすことであると思います。

どのような時代となっても、生徒には、自分で自分の道を拓き、自分らしく生きていくことを忘れないようにして本校の校訓である「聡明なる勤勞」を実践する学校生活を送ってもらいたいと考えます。そして、生徒が、高校3年間で立派に成長して本校を卒業し、一人ひとり自分の夢や希望に向かって、自らを選択した道を、自信と勇気をもって、少しずつでも前へ、明日へ、歩み出してもらいたいと思っております。天台宗の開祖、最澄が残した「一隅を照らす」という言葉があります。「一人ひとりが自分のいる場所で、自分の持ち場で、自らが光となり周りを照らしていくことが私たち一人ひとりの役目であり、放たれた光が、隅々まで広がり重なることでより良い世界が広がっていく」という意味です。本校卒業生が「世の中に一隅を照らす存在」となって輝き続けることを期待したい。これによって、地域の学校として、地域の一層の活性化につながるものと確信します。

最後になりますが、緑なす樹木や校舎のそここに息づく伝統と歴史を私たちの力とし、今後とも生徒の願いをかなえる学校、保護者から信頼され、地域の誇りとなる学校として充実を図ってまいりたいと考えます。同窓会の皆様には、今後も母校へのお力添えを賜りますようお願いいたします。渥美農業高等学校同窓会のごまします御発展と、同窓生の皆様の御健勝、御多幸をお祈り申し上げます。挨拶とさせていただきます。

活躍する部活動

陸上競技部 東海新人への出場

陸上競技部は、3年生7名・2年生15名・1年生3名の25名で活動しています。競技性だけでなく、部員同士やそれ以外の方への挨拶や協調性を養い、人間性を高めていくことで、まわりから応援される部活動を目指して取り組んでいます。今年度は5年ぶりにやり投げで東海新人に出場することができました。出場に際して、同窓会の皆様から多大なるご支援をいただいたこと、誠に感謝いたします。また、今回東海大会に出場できませんでしたが、やり投げの記録が50mを超える選手がもう1名おり、来年度に行われるインターハイへの出場を目指し取り組んでいます。早朝練習に参加する生徒も多く、向上心が高く、目標実現のために自ら課題を設定して努力する、活気ある部活動になっています。今後も、やり投げ種目の選手筆頭に、「チーム渥農陸上部」として上を目指して取り組んでいきます。以降は、愛知県東海新人体育大会に出場した選手からの部活動紹介とさせていただきます。

「今年の成果」

2年B組 柏原 京平

私は、高校から初めてやり投げをやりました。中学生まで野球をやっていましたが、高校では陸上競技の道に進むことにしました。入学して目標にしたのが「全国大会出場」です。2つ上の先輩が全国大会に出場する姿を見て、私もその背中を追いかけて取り組んでいます。5月に行われた愛知県高校総体では、本番で自分の力を最大限引き出すことができず悔しい結果で終わりました。そこから、私は「東海大会出場」を1つの目標にし、

9月に行われる新人戦までたくさんきつい練習やウエイトトレーニングをしてきました。その結果、愛知県高校新人で3位に入賞し、東海大会に出場することができました。東海大会では、雰囲気と周りの選手に圧倒されてしまい、結局自分の力を出し切ることができませんでした。三重県まで応援に来てくれた仲間には申し訳ない気持ちで、その日は一言も話せませんでした。「東海大会出場」の目標は達成しましたが、全国大会出場はまだです。また緊張して自分の力が出せなくなってしまうように、この冬季練で自分に自信をつけるべく体づくりに励み、悔いが残らないように精進していきます。



野球部

高田 雄太

野球部は、打倒私学を目標に、平日は4〜5時間、土日は一日練習に励んでいる。平日の練習は、走力強化のためにジャンプ系のメニューや柔軟性

アップを目的に股関節周りのメニューを取り入れたアップをおこない、守備練習、バッティング練習、ウエイトトレーニングという流れで練習をおこなっている。土日は、練習試合や実戦形式を多くおこなう、公式戦にむけた練習をおこなっている。

とくに本部活動では、ウエイトトレーニングに力を入れている。シーズンを通して、ベンチプレスやスクワット、デッドリフトを中心にさまざまなメニューを実施している。フィジカルアップのためにウエイトトレーニングに欠かせないのが、食事である。生徒たちは、おなかを減らさないようにこまめに食事をするように心がけ、業後も捕食でにぎりやプロッコリー、プロテインをとっている。そこには、家庭との連携が欠かせず、家に帰ってからもしっかりとバランスの取れた食事がとれるように生徒も保護者も協力しておこなっている。

昨シーズンは、春秋ともに地区3位で、全三河と県大会に出場したものの、一回戦敗退という悔しい結果に終わってしまった。3月から始まる2年生にとつては最後のシーズンにむけて冬の強化練習にも取り組んだ。朝7時からフィジカルトレーニングに励み、業後も良い感覚をつかむために反復練習、そしてウエイトトレーニング。弱音を吐きたくなる時期ではあるが、ともに頑張る仲間、普段支えてくださる保護者、そして何より勝ちたいと願う生徒たち自身の思い、様々な思いに応えるために顧問も負けじと指導していく。

高校野球というものは、2年半という期間限定なもの。最後に笑える学校は限りなく少ないが、高校野球を通じて成長した姿、そして何より大好きな野球をしている輝かしい時間を味わってほしい。そんなカッコいい高校生にするため、学校生活から心と体を鍛えていきたい。

■剣道部

五月六日
第七十八回愛知県高等学校総合体育大会東三河支部予選会剣道競技
男子団体
本校 4-10 豊橋中央
本校 1-12 豊橋東

八月二十四日
第七十回全三河高等学校剣道大会
本校 2-13 安城

十一月四日
令和六年度愛知県高等学校新人体育大会東三河支部予選会剣道競技
本校 2-11 豊橋西
本校 0-12 豊橋東

■陸上競技部

四月二十七日〜二十九日
第七十八回愛知県高等学校総合体育大会陸上競技大会東三河予選会
男子4×400mR 七位
堀江 勇斗・楠田 理央・柏原 京平・石橋 大晟・鈴木 優斗 県大会出場

男子やり投げ
柏原 京平 二位 県大会出場
高柳 俊佑 四位 県大会出場
女子やり投げ
村田 魅沙稀 四位 県大会出場
女子円盤投
村田 魅沙稀 五位 県大会出場

六月一日
第四十回東三河陸上競技選手権大会
男子やり投げ 柏原 京平 三位
女子やり投げ 村田 魅沙稀 一位
女子円盤投 村田 魅沙稀 三位

九月七日〜八日
令和六年度愛知県高等学校新人体育大会陸上競技大会東三河予選会

男子砲丸投 高柳 俊佑 三位 県大会出場
男子やり投げ 柏原 京平 二位 県大会出場
高柳 俊佑 三位 県大会出場
吉川 晴貴 六位 県大会出場
男子円盤投 松下 枇侶斗 四位 県大会出場
鈴木 陽 六位 県大会出場
女子やり投げ 村田 魅沙稀 二位 県大会出場
女子円盤投 村田 魅沙稀 三位 県大会出場

九月二十九日
令和六年度愛知県高等学校新人体育大会陸上競技
男子やり投げ
柏原 京平 三位 東海大会出場

■野球部

三月二十一日
令和六年度 春季東三河高校野球大会
予選リーグ 一位
本校 11-2 海陽

本校 7-10 蒲郡東
本校 0-11 豊川工
本校 4-13 時習館
二次トーナメント 三位
本校 2-13 豊橋商

四月十三日
第七十四回愛知県高等学校優勝野球大会
本校 1-16 一宮南
五月十一日
第五百十回中日旗争奪全三河高校野球大会
本校 0-15 愛産大三河

六月二十九日
第六十六回全国高等学校野球選手権大会 愛知大会
一回戦 本校 8-10 守山
二回戦 本校 3-4 瀬戸
八月十二日
令和六年度 秋季東三河高校野球大会
予選リーグ 一位
本校 9-0 三谷水産
本校 12-2 蒲郡東
本校 4-12 成章
本校 4-10 時習館

二次トーナメント 三位
本校 2-4 豊橋中央

九月七日
第七十七回愛知県高等学校優勝野球大会
本校 5-6 中部大第一

十月十二日
第五百五十一回中日旗争奪全三河高校野球大会
本校 3-15 刈谷

■卓球部

四月二十九日
愛知県総合体育大会東三河支部予選
男子シングルス
近藤 寛介 五位 (県大会出場)
花井 哲太 九位 (県大会出場)

女子シングルス
小林 優依 七位 (県大会出場)

五月三日

男子ダブルス
近藤 寛介・早川 樂 六位 (県大会出場)
女子ダブルス
小林 優依・中川 葉月 七位 (県大会出場)

五月十八日

愛知県高等学校総合体育大会卓球競技大会
女子シングルス
一回戦 小林 優依

五月十九日

愛知県高等学校総合体育大会卓球競技大会
男子シングルス
一回戦 近藤 寛介・花井 哲太

五月二十五日

愛知県高等学校総合体育大会卓球競技大会
男子ダブルス
近藤 寛介・早川 樂 ベスト64
女子ダブルス
小林 優依・中川 葉月 ベスト32

五月二十八日

国民体育大会卓球競技少年の部東三河支部予選会
男子
近藤 寛介 (推薦)
花井 哲太 (推薦)
高井 勇利 (五位)
女子
小林 優依 (推薦)
河合 結夢 (九位)

十月二十六日
令和六年度愛知県高等学校新人体育大会卓球競技大会東三河支部予選会
男子団体 三位 (県大会出場)

十一月二十三日
愛知県高等学校新人体育大会卓球競技大会
男子団体 ベスト32

■バスケットボール部

四月二十日
第七十八回愛知県総合体育大会バスケットボール競技大会東三河支部予選会
一回戦 本校 78-51 蒲郡
二回戦 本校 35-114 豊川

八月八日〜九日

令和六年度東三河支部高等学校バスケットボール競技夏季選手権大会

一回戦 本校 63-45 豊橋東
決勝トーナメント一回戦 本校 52-54 小坂井

九月二十一日
第七十七回全国高等学校バスケットボール選手権大会
愛知県大会東三河予選会

一回戦 本校 106-60 蒲郡東
二回戦 本校 53-57 国府

■バレーボール部 (男子)

四月二十七日

令和六年度愛知県高等学校総合体育大会バレーボール競技
東三河支部予選会
本校 0-12 桜丘

七月十三日

令和六年度愛知県高等学校バレーボール選手権大会東三河支部予選会
本校 1-12 豊橋工科

九月二十八日

令和六年度第七十七回全日本バレーボール高等学校選手権大会
東三河支部予選会
本校 2-11 豊橋南
本校 0-12 桜丘

十二月十四日

令和六年度東三河高等学校バレーボール選手権大会
本校 2-10 国府
本校 0-12 豊橋工科
本校 0-12 豊川

■バレーボール部 (女子)

四月二十七日

令和六年度愛知県高等学校総合体育大会バレーボール競技
東三河支部予選会
本校 0-12 時習館

七月十三日

令和六年度愛知県高等学校バレーボール選手権大会東三河支部予選会
一回戦 本校 2-0 御津あおば
二回戦 本校 0-12 豊橋商業

十二月十四日

令和六年度東三河高等学校バレーボール選手権大会
本校 0-12 豊橋中央
本校 0-12 豊橋東

■ソフトテニス部

四月二十日

第七十八回愛知県高等学校総合体育大会ソフトテニス競技
東三河支部予選会
個人戦(ダブルス) 柏尾 凌亜・香山 脩冨(ベスト16)

団体戦 予選リーグ敗退
五月十八日
第七十八回愛知県高等学校体育大会ソフトテニス競技
個人戦 柏尾 凌亜・香山 脩冨(一回戦敗退)

六月三十日
令和六年度国民スポーツ大会ソフトテニス競技東三河支部予選会
個人戦(ダブルス) 柏尾 凌亜・香山 脩冨(ベスト16)
県大会出場

七月二十日
令和六年度全三河高等学校ソフトテニス競技東三河予選会
団体戦 7位
一次リーグ 本校 0-1③ 豊川
本校 ②-1① 蒲郡東
本校 ③-1① 福江
二次リーグ 本校 ②-1① 豊川工科
三次リーグ 本校 ②-1① 田口
本校 ②-1① 蒲郡

九月七日
令和六年度愛知県高等学校新人体育大会ソフトテニス競技
東三河支部予選会
個人戦(ダブルス) 柏尾 凌亜・香山 脩冨(ベスト16)
県大会出場

十一月四日
東三河高等学校ソフトテニス学年別大会

二年生の部
柏尾 凌亜・香山 脩冨(三位)

■バドミントン部

四月二十日〜二十九日

愛知県総合体育大会バドミントン競技三河支部予選会
男子
団体 二回戦 本校 2-3 新城有教館作手
個人シングルス 大谷 健人 ベスト32
個人ダブルス 大谷 健人・水野 混斗 ベスト32

九月十四日〜二十二日
愛知県新人体育大会バドミントン競技三河支部予選会
男子
団体 一回戦 本校 2-1③ 鶴城丘
個人シングルス 柴田 豪喜・林 頌太 ベスト32
個人ダブルス 柴田 豪喜・林 頌太 ベスト16
女子
個人シングルス 寺澤 茉央 ベスト32
個人ダブルス 寺澤 茉央・森下 瑠香 ベスト32

十一月二日
農高祭 ミニコンサート実施

■吹奏楽部

十一月二日

農高祭 ミニコンサート実施

■パソコン部

八月九日

日本情報処理検定協会主催第三十八回全国パソコン技能競技大会
情報処理競技 団体三位
村田 優月
高橋 征裕
河合 菜ノ香
浅田 大吉

■文芸写真部 (写真)

十二月六日〜八日

愛知県高等学校文化連盟写真専門部東三河支部第三十七回
高校生の写真展
(会場:豊橋市民文化会館)
奨励賞 三ツ村 里久

■文芸写真部 (文芸)

十一月二日

農高祭 文芸記念個展